

川上中学校の校舎の紹介



川上中学校の特徴

- 1 川上村産の唐松（天然唐松含む）をふんだんに使い、村有林役37haから伐り出された木材を、建物の構造、外装、内装に1,035m³もの大量に使用していること。
- 2 建築材としての利用のみならず、生徒の机、柿子等の家具も川上村産の唐松を使用し、教職員の机、図書館の閲覧机、会議テーブル、ランチルームのテーブル等には天然自松の練り付けが施されていること。
- 3 エコスクールの認定を受け、文部科学省、NEDO、林野庁、長野県より、地域開紋施設の位置づけで国土交通省より夫々から補助を受けた複合多彩な施設であること。
- 4 2005年の愛・地球博に出展されグローバルコモン2に展示されたオブジェ（作品名、プレイヤーエイリアン）やカナダ館で使用されたダグラスファー（米松）の寄贈を受け、生徒のみならず保育園児やディサービスに通うお年寄り等、村民の憩いの場としても利用できる公園広場を設備していること。
- 5 村有林交換プロジェクトによる、大桑村の檜、根羽村の杉、そして本村の唐松が交流の証として、ランチルーム横に配置してあること。

1 はじめに

「レタスなどの蔬菜（そさい）栽培だけでなく、林業も村の柱。レタス栽培が盛んになる前は、住民の多くが林業で生計を立てていた。その林業の文化を、子どもたちに伝えたい。」という願いのもと、「村内産のカラマツ」を中心に造られた川上中学校校舎。校舎に使用されている木材の約80%は地元産のカラマツを使用しています。

平成20年(2008年)7月に完成し、8月末からこの校舎で授業を開始しました。この校舎を建てる時の関わった者の中で言われていた言葉が、「祖父母が植え、親が育てたカラマツで、孫が学ぶ新校舎」というものです。また、この思いを込めて造られた新校舎は、100年持つと言われています。ここで、その思いが込められた校舎を紹介します。

2 施設紹介

★校舎全景



これからの川上村を担う生徒を育て、村民が集う場になるよう校舎を設計しました。校舎は木造（一部RC構造）で、耐震性を確保しつつ準耐火建築物となっています。また、外壁には、川上村産のカラマツをふんだんに使いました。

コミュニティスクールの機能を持たせるために、写真の右側に移っている体育館と音楽堂には、村民用の入口を設けると共に、簡単に区分けできるような仕組みを持たせています。

環境に配慮した仕組みとして、エネルギー資源を節約するパッシブソーラーシステムを導入しました。そのシステムの一部が中央奥の普通教室棟の屋根に見られます。

藤原村長の生きた自然を学ぶ「屋根のない学校」の理念に基づき、生徒もカラマツの伐採に関わりました。現在は、次の世代につなぐカラマツの植林に児童・生徒が参加しています。

★原生林をイメージした集製材「美林」

耐震力を高めるために、集製材を利用しています。この集製材は、川上に残る唐松の原生林と松葉をイメージして、何度かモデルを作成して決めだしてきたものです。

後述するギャラリーなどで見ていただくと、原生林のイメージが、十分表現できたのではないかと考えています。

